

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月25日

札幌市立真駒内曙中学校

1 本年度の重点目標

「知・徳・体の調和のとれた育ちをめざす特色ある教育課程の編成」

- I 「学ぶ力」の育成 II 「豊かな心」の育成 III 「健やかな体」の育成
 IV 信頼される学校の創造 V 「働き方の見直し」による学校改善

2 本年度の経営方針

- 1 安心・安全な学校づくりと「小中一貫した教育」の推進
 2 道徳教育、命を大切にす指導の充実・不登校生徒・学級閉鎖・出席停止生徒への対応
 3 ICTを活用した学習内容や方法の工夫による授業の構築

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校教育目標	重点目標に基づいた適切な教育課程の編成	A	行事や講演会等を有効活用し、生徒の主体的な取組を充実させ、知・徳・体の意識啓発と適切な教育課程の編成を図る。	A	A
	経営方針に基づいた適切な教育課程の編成	A	ICT等を有効活用した個に応じた学習の取組の充実を図る。特に命の安全教育の位置づけを明確にする。	B	A
学習指導	探究的・主体的な教育活動への取組 （「学ぶ力」の育成プログラム）	A	新学習指導要領に基づいた、授業計画・内容・評価の改善に取り組むとともに、校内研修体制の充実を図る。 全国学力学習調査、各種アンケートの結果等を踏まえ、AARサイクルに基づいた教育課程の編成の工夫を図る。	A	A
	低学力・不登校支援対策 （「学ぶ力」の育成プログラム）	A	Stime の活用やTT、少人数学習のより一層の工夫に取り組むとともに、オンライン、オフラインを柔軟に組み合わせた教育活動を推進する。	A	A
	総合学習・道徳計画を基にした授業の実践	B	3年間を見通したキャリア教育、道徳計画の作成や、日常的に授業実践の資料化に努める。学年道徳の実施や担任以外の教師による輪番道徳を継続する。	B	A
	研究主題に基づいた授業の実践とICTの活用	A	研究主題に基づいた授業実践の工夫、取組の充実を図るとともに、より効果的なICT活用の工夫に取り組む。	A	A
	特別支援教育に関する研修の充実と実践	A	担任、学年、SC、相談支援パートナーとの連絡、連携を強化し、生徒の実態に即した対応を図る。必要に応じて学びの支援委員会を開催し、学校全体の共有と共通理解の充実に努める。研修会を通して、特別支援生徒への対応についての理解を深める。交流学習を行うことでインクルーシブ教育の充実に努める。	A	A

学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級に限らず、どの学級においても支援の必要な生徒が在籍しており、通常学級の担任も対応力を求められています。生徒理解のための研修の充実や組織対応は欠かせない手立てで、支援や対応が小から中へ引き継がれていくことができるよう、小学校においても大切な視点だと感じています。 ・小学校からのキャリア教育の内容が見えると良いと思う。 			
生徒指導・活動	挨拶など、基本的な生活習慣の定着と安全・安心な学校生活に向けた取組	A	生徒会のあいさつ運動等で一定の効果がみられたため継続する。また、今年度から実施している小中で連携したあいさつ運動『ハロスマ』をさらに工夫・改善する。防災教室、安全教室も継続していく。	A	A
	生徒理解を目的とした相談活動の充実と、所属感を高める生徒指導の推進	A	生徒理解、現状把握のために年間を通じた相談活動や日常観察に努め、適時対応を図る。生徒自ら考え、行動する場面を日常生活や行事の中で設定し、自己有用感を高め、自主性の向上を図ると共に、十分なサポート体制を築く。	A	A
	健康に関する指導の充実 (「健やかな身体」育成プログラム)	A	養護教諭と連携を図り、保健分野の授業実践を行った。保体委員会や体育行事との関わりを増やし、学校全体での取組を活性化できた。	A	A
	行事、特別活動を通じた主体的な生徒活動の実現	A	学校祭や校内でのボランティア活動の企画・参加を通じた、生徒が主体的に活動する機会を引き続き設ける。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考えて行動できる主体性を、あらゆる場面で育てようとしていることが読み取れました。「ハロスマ」に代表される挨拶運動も、自分から進んで「声」を出そうとする姿勢が、まさに主体性につながる第一歩だと感じています。 ・学校祭の雰囲気も良かった。生徒理解と現状把握が取れており、生徒と教師の関係性も良好に保たれているのではないかと。 ・トイレの洗面台等の汚れが気になっている。自分から掃除ができるような生徒、「見えないボランティア」が広がってくれたら良いと思う。 			
保護者・地域	開かれた学校生活を目指すべく、学校情報の発信や学校公開の推進	A	学校公開日を設け、保護者の来校する機会を多くしていく。HPやすぐーる等を利用した、学校情報の発信に努め、公開の方法や内容を一層充実に努めていく。	A	A
	外部の教育力の活用	A	小中一貫した教育の充実に努め、CS導入に向けての準備を進める。年間計画の中に、外部の教育機関や講師を活用する場面を適時設定し、生徒の社会に対する視野を広げる機会の充実に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫した教育の充実に向けて、小中の職員が顔を合わせられる機会が増え、どんな取組にしていくことが、子どもたちの9年間をなめらかなものにしていくことができるのか、少しずつ見えてくることを願っています。 ・地域の中にも顔見知りが増え、小学校での取組が中学校、地域へと広がっていくことを願っています。 			

評価書文言補足

ICT

～Information and Communication Technologyの略。アナログで行っていた教育のデジタル化を指し、電子黒板やタブレットなどのデジタル器機の導入、インターネットを介した学習支援ツールの活用などを行う教育の総称。

AAR

～OECDのEducation2030プロジェクトで提唱されているAnticipation(見通し)－Action(行動)－Reflection(振り返り)のステージを繰り返す学習プロセスのことで、札幌市としてこのAARサイクルを推進しています。

Stime

～本校独自の放課後学習時間の名称で Study や Special などの意味を含め、特別な学習時間として設定しています。

SC

～スクールカウンセラーの略。

インクルーシブ教育

～障害や病気の有無、国籍、性別といったさまざまな違いや課題を越えて、すべての子どもが同じ環境で共に学び合う教育のことです

『ハロスマ』

～「ハロースマイル」の略称で、本校生徒会が企画した登下校時に小学生と中学生がお互いに挨拶を交わせる関係を築くための活動です。

HP

～ホームページの略。

CS

～コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の略で、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことが期待されています。